
全然タイプじゃない

黒狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

全然タイプじゃない

【Zコード】

Z7303D

【作者名】

黒狼

【あらすじ】

西暦2×××年、ある男女にある軍人男が初対面でプロポーズをする。

プロローグ【幼い日の約束】

プロローグ

小さな子供が、泣いている。

ボンヤリと眺めながら僕は思った、だが僕はそんな子供を慰めには行かない。

別に僕が、「ガキのお守りなんて面倒くさいから、やだ。」という訳ではない。

なぜなら今、僕の目に映っている光景はすべて夢で、泣いている子供は幼い頃の僕自身だからだ。

だから僕は、ただボンヤリとこの光景を眺めながら目が覚めるのを、待っていた。

だが、そんな光景に変化が訪れた、子供の横に青年が現れた。青年は、子供と同じ目線になるように、しゃがみこむと子供になにやら話している。

僕の耳には、青年の声が良く聞こえなかつたが、青年の最後の言葉は良く聞こえた。

「じゃあ、約束だ。必ず迎えに来る。期限は君の……」

どうゆづ意味だらうか、何を子供は約束したんだろうか。

そんなふうに、考へているとだんだんと意識が遠のいていくのと同時に耳元で騒がしい音が聞こえてきた。

遠のく意識の中で青年の言葉が続く。

ああ、目が覚める。

今日は、僕の

「十八歳の誕生日、迎えに行くよ絶対に。」

十八回目の誕生日だ。

僕は、何をあの青年と約束したんだろう。

「結婚しよう、必ず。君が忘れても、僕は忘れない。絶対に。」

何かが始まる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7303d/>

全然タイプじゃない

2010年11月2日09時04分発行